



葉
隱
聞
書
四

圖書に

け巻 勝茂柳の世の年譜を記す
書記之 忠臣柳の事を知る

一 成時と中時と太宰の分割は南の何ともいかりけり時分略目と
ふさぎけり 日暮柳の何とてをむかへと素の心は其位理
りかるといふ仲い中

一 光茂公と清茂公は花といふ西原の所百武作藏生野
藏の山村新金けと人々をい作藏の終つたを云碑志藏の
情海をみみきし守勤と云の新志の相と云と入流とあり
勤と云と大和の傍にとたてけりぬと云と云仲い中

一 多源院柳の葉十七と云仲見松の九けり方西原の所入水
ぬき西原の須衣下依成端海主取成久柳の事と云方素と云
久柳の事と云方素と云知り七言なりと云方西原の所入水
肝帝大と云と云方素と云知り七言なりと云方西原の所入水
上野成の事と云方素と云知り七言なりと云方西原の所入水
西原の事と云

寄贈

佐賀県立図書館
昭和
53.3.31
52-4538

一 有るに河津城ありて、作付より松平に寄る

佐別原小倉、河津城より河津川中流まで、河津川
四月廿九日小倉より河津川中流まで、河津川
河津川中流より河津川下流まで、河津川
河津川下流より河津川河口まで、河津川
河津川河口より河津川河口まで、河津川

河津川河口より河津川河口まで、河津川

河津川河口より河津川河口まで、河津川

河津川河口より河津川河口まで、河津川

河津川河口より河津川河口まで、河津川

河津川河口より河津川河口まで、河津川

一 勝安公の御下の方け思ひおれども思ふとて作中
今ふとて作中

一 勝安公の御下の方け思ひおれども思ふとて作中
今ふとて作中

一 勝安公の御下の方け思ひおれども思ふとて作中
今ふとて作中

一 勝安公の御下の方け思ひおれども思ふとて作中
今ふとて作中

一 代智の時衣初下の方け思ひおれども思ふとて作中

一 忠直公の御下の方け思ひおれども思ふとて作中
今ふとて作中

一 忠直公の御下の方け思ひおれども思ふとて作中
今ふとて作中

一 忠直公の御下の方け思ひおれども思ふとて作中
今ふとて作中

一 忠直公の御下の方け思ひおれども思ふとて作中
今ふとて作中

一 勝安といえぬ毎に夜内より安社に出入りて夜半に寝て夜半に起る
其のとき夜中にせんえと存果言ふなり夜半に起て分ふ安社
に安社の地とさぐり一夜を明しに安社に寝て夜半に起る
一 勝安公作は武士たる安社に十八枝の槍と悉くかゝる安社毎
に明しに安社に寝て夜半に起る

一 勝安公十八歳に安社に力と四つとせ安社中より安社に
とせ安社に四つとせ安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に

一 安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に

一 安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に

一 勝安公作は毎年元夜に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に

一 安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に

一 安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に
安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に安社に

今子孫指桑為礼と云ふ所成文分要安んじし合後ハ殿中
膳茂公所用にお違ひなり入坊主様より云はく流家より候へ
所用口氣坊主お來申あり坊主ハ此來久矣と云中
膳茂公に井上龍溪より口々にいふ事あり海川坊主源淺乃教書と
妻の云候にお知所申口相済口申し

[illegible][illegible][illegible]

予見一日に乃ち其の正に西流と流を即成神の八人下一人也
今更に口流の中何年上下に西流とより其の一人を
お侍成神の友寺中にお家におれ取日る有流の精と西流と
とより其の四好生の時中にも市いとして流成るなり也

一 勝者公の 夫公は代に流成る市方取流の来計に其の
お流の客に 夫公は代に流成る市方取流の来計に其の
勝者公の西流の時中何年上下に西流とより其の一人を
お侍成神の友寺中にお家におれ取日る有流の精と西流と
とより其の四好生の時中にも市いとして流成るなり也

一 勝者公は代に流成る市方取流の来計に其の

月流に西流に神聖の事か人取を其の流に記を神聖なる
口切を流に記を神聖の事か人取を其の流に記を神聖なる
はとの流に記を神聖の事か人取を其の流に記を神聖なる
お侍成神の友寺中にお家におれ取日る有流の精と西流と
とより其の四好生の時中にも市いとして流成るなり也

一 勝者公は代に流成る市方取流の来計に其の

一 勝者公は代に流成る市方取流の来計に其の

一 勝者公は代に流成る市方取流の来計に其の

一 勝者公は代に流成る市方取流の来計に其の

一 勝者公は代に流成る市方取流の来計に其の

一 勝者公は代に流成る市方取流の来計に其の

一 寛文十三年 三月 十日 丁酉 卯の刻 卯の刻
 一 けん和二年 四月 六日 卯の刻 卯の刻
 一 元禄九年 二月 二日 卯の刻 卯の刻
 一 大正十三年 七月 七日 卯の刻 卯の刻

けん和二年 四月 六日 卯の刻 卯の刻
 卯の刻 卯の刻

一 傳者より中江流布方おの地を獲ふと爲すをねとつて
 本領より出でしをいふに 獲ふと爲すに 傳者成程と 忠重に
 奉平 所かうとつて ねとつて 見せす せしと ねとつて ねと
 とも ねとつて 傳者 忠重に 見せす ねとつて 傳者 忠重に
 とも ねとつて ねとつて 忠重に 見せす ねとつて 忠重に
 と ねとつて 忠重に 見せす ねとつて 忠重に 見せす ねと
 一 忠重に 見せす ねとつて 忠重に 見せす ねとつて 忠重に
 忠重に 見せす ねとつて 忠重に 見せす ねとつて 忠重に

一 傳者より中江流布方おの地を獲ふと爲すをねとつて
 本領より出でしをいふに 獲ふと爲すに 傳者成程と 忠重に
 奉平 所かうとつて ねとつて 見せす せしと ねとつて ねと
 とも ねとつて 傳者 忠重に 見せす ねとつて 傳者 忠重に
 とも ねとつて ねとつて 忠重に 見せす ねとつて 忠重に
 と ねとつて 忠重に 見せす ねとつて 忠重に 見せす ねと
 一 忠重に 見せす ねとつて 忠重に 見せす ねとつて 忠重に
 忠重に 見せす ねとつて 忠重に 見せす ねとつて 忠重に

一 傳者より中江流布方おの地を獲ふと爲すをねとつて
 本領より出でしをいふに 獲ふと爲すに 傳者成程と 忠重に
 奉平 所かうとつて ねとつて 見せす せしと ねとつて ねと
 とも ねとつて 傳者 忠重に 見せす ねとつて 傳者 忠重に
 とも ねとつて ねとつて 忠重に 見せす ねとつて 忠重に
 と ねとつて 忠重に 見せす ねとつて 忠重に 見せす ねと

水うてきり 車馬公たてし作りと於今うきふ中法に
又たより所河文より相る河うね相る中法に 車馬公たて
きりし作り中法に

一 身合目し書月とて流ふなる作り金銭に失月難き方計を

玉家より一まふる見沙法に流うる中法に 車馬公たて

一 徳長院より十二坊に建てる所法に中法に 入用法に 車馬公たて

お酒より中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

一 了安院より浦東派に流うる中法に 中法に 中法に

一 中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

一 中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

一 中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

一 寛永十二年三月 勝安公法に 中法に 中法に

中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

一 同二年肥市柳法に 中法に 中法に 中法に

中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

一 肥市柳法に 中法に 中法に 中法に 中法に

中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

中法に 中法に 中法に 中法に 中法に

事いしやは能く是なりしに後きし人其是なり代る未出候に
し月長久候お果に候にあり病なる程入令にきくし月方
お形に 肥前柳の記を月時長くお出遊候伝也

一 日奉柳公五年法事より 膳所公と作れしに三年と法事
またし海合と成りあり候にふたふた成中法事柳公お海に僧無
し酒と酒振と酒親類柳公お中し列せし酒振と成り

日奉柳公五年法事より 膳所公と作れしに三年と法事
お大あり候にふたふた成中法事柳公お海に僧無
もこの今世と年とを別れ来たりとふたふた成中法事柳公お海に僧無

先士柳公五年法事より 膳所公と作れしに三年と法事
用しふたふた成中法事柳公お海に僧無
長久と成り候にふたふた成中法事柳公お海に僧無

多しお海に僧無候にふたふた成中法事柳公お海に僧無
限し柳公五年法事より 膳所公と作れしに三年と法事
先し今世と年とを別れ来たりとふたふた成中法事柳公お海に僧無

一 多侍寺新遊重と建ふにふたふた成中法事柳公お海に僧無

切敷の舟ありし 膳所公と作れしに三年と法事柳公お海に僧無

と作れしに三年と法事柳公お海に僧無

其方柳公五年法事より 膳所公と作れしに三年と法事

一 膳所二年膳所公五年法事より 膳所公と作れしに三年と法事

先氏公五年法事より 膳所公と作れしに三年と法事

先氏公五年法事より 膳所公と作れしに三年と法事

先氏公五年法事より 膳所公と作れしに三年と法事

先氏公五年法事より 膳所公と作れしに三年と法事

先氏公五年法事より 膳所公と作れしに三年と法事

先氏公五年法事より 膳所公と作れしに三年と法事

一 膳所公五年法事より 膳所公と作れしに三年と法事

一 江土佐下口宣 一口史願 以宣重臣清成と主 水原氏本
二月十日

一 侍江口界と寛永三年八月十九日 后京勝成と主

